

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の中で生活している事を忘れず社会性を保ちながら入居者1人1人の自尊心を大切にした生活を目標にしている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者と全職員は理念を把握し、理念を実践をする為にはどうすべきか話し合う機会を持ち、地域社会の中での苑の役割、また入居者のその人らしい生活の支援の為に常に研鑽に励み、学習、技術向上に努めている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族へは、利用者の入所時に文書の交付・説明を聞いて頂き、いつでも確認して頂ける様、ユニット箇所へ掲示している。地域の方々へも定期的に行う地域会議にて理念への理解が得られる様説明を行っている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所の方々とお会いした際には、積極的に挨拶を行い温かい言葉を頂く事も多く、職員・入居者の顔を覚えて下さり、顔なじみの関係が少しずつ出来てきている。</p>	<p>新興住宅地で地元の方が少ないので、積極的に交流に励み、隣近所の方とのつながりを持ち、気軽に立ち寄れる苑を目指したい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>お祭りなど地域行事などへも参加させて頂き、地元の方々との交流がもてている。自治会・老人会等への参加が少ない。</p>	<p>自治会や地元の活動へもっと参加し、地域住民の方々との交流を深めたい。</p>

6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	<p>利用者への日常生活支援を考え、行う中で少しず つ習得してきた職員の知識経験を地域へ生かせない か、話し合いは持っているが、実践するまで 至っていない。</p>		<p>事業所・職員の持っている知識・力を地域に 暮らす高齢者へ生かす取り組みをしていき たい(介護相談・趣味・生きがい作りへの支援 等)</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>毎年自己評価及び第三者評価を実施する意義の説 明を受け理解している。また評価を受け改善へ向 けての話し合いを持ち具体案をあげ、即座に取り 組んでいる事も多い。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>施設において利用者へどのようなサービスを行っ ているか、又行動内容などの報告を行い、評価へ の取り組みとして業務内容、サービスの見直しの 話し合いも行い、意見を出し合ってサービスの質 の向上へ向けている。</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>困った事等があればすぐに市への相談を行って おり、運営やサービスの課題解決に向けて協議し、 サービスの向上に結びつく様取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る</p>	<p>管理者・職員共に積極的に研修等学ぶ機会を持 ち、権利擁護事業や成年後見制度の理解をして いる。利用者に必要性があれば、それらを活用す 事が出来る様支援していくつもり。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者職員共に高齢者虐待防止関連法について話 し合いを行い学ぶ機会をもっている。又施設での 職員の虐待や危険が無い様注意を払っている。</p>		

4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・契約解除時には十分な理解を得る為、利用者・家族の^へに合わせ、不安等が生じていないかその都度確認しながら説明を進め、納得して頂ける様に努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が、日常生活サービスを受ける上で意見や不満苦情があれば、その都度職員へ思いを伝えていただいております。管理者へも直接相談意見を伝えられる様に働きかけています。また運営推進会議に利用者を代表して一名が出席し、皆の意見・願いを外部者へも伝えています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月利用者個々の1ヶ月の様子・状態を書面にて定期的に報告し、その他面会においてもその都度、家族等が安心される様、日常の暮らしぶりや健康状態等をお伝えしています。職員の異動等についても報告し、苑への要望、サービスへの希望等御意見を頂いています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族へ面会時などにさまざまな意見を頂いており玄関先へも苦情箱を設置し、不満苦情などお受けしています。その内容を外部者への表せる様、地域の会議の場においても表し、取り組みについても話し合いが出来ています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回ケア会議の場面に意見を述べる事が出来る。又その都度思った事提案などがあれば管理者に直接話しすることが出来るが、ゆっくり話し合う時間は持てない為、意見を出しにくい事がある。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>外出・外食・買い物・行事の際には、職員数をふやして勤務調整をしている。入浴も出来るだけ職員を増やすようにしている。</p>	

18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>毎月3.4回は全ユニットで集まって集団ワークするので、少しは職員の顔も知ってる程度であるので、異動の際もダメージは少ない。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各職員が地域密着型サービスの重要性を知り、サービスの質を向上させる為、経験や能力等に応じ、段階を踏みながら、勉強・研修への参加が出来る様取り組んでいる。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域推進運営委員会へ管理者・職員が出席し、地域の同業者と交流する機会を持っている。また地域行事等へ共に参加し互いに触発し合い、サービスの向上につなげている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフの親睦会にお金をだしたり、忘年会を催してくれたりしてストレス軽減に取り組んでもらっている。</p>		<p>休憩時間を定め交代で心身を休める時間を作りたい</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々のスタッフの言動をよく観察されている。向上心を持つように声かけされたりしている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>まず利用者の表情を見てゆっくり傾聴し不安な事や求めている事を話せば、それを受け止める。不安な事を話されるまでゆっくり信頼関係を構築している。</p>		

24	<p>初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談や見学時にも何が不安で何を求めているかを聞いている。それを受け止めている。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>その時に必要とされているサービスを提案している。どう困っているの科を聞いたり、何が改善されればよりよくなるのかを話し合ったりしている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>何度か苑に足を運んでもらった後、体験入所してもらい、本入所となるように家人と相談している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>常に自分の親でなると想定し、教えてもらったり、察しあう関係になるよう努力している。</p>		
28	<p>利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている</p>	<p>常に利用者の事で家人との相談を密にしている。梶井を巻き込んだ介護ができるような関係を築いている。</p>		
29	<p>利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家人と利用者がお互いをいたわりあえるように両方の立場から話し、理解しあえるように支援している。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入所者の友人が訪ねてきたり、年賀状をもらったり、電話希望があれば電話して、関係が途切れなないようにしている。</p>		

31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士名前を覚え、顔なじみになっている。それぞれ仲の良い人がおり、孤立しないようにスタッフまじえて話したり、皆の輪の名前で話したり支えあっている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても街でみかけると声かけていえる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まず行動する時は本人にどうしたいのか聞いてからスタッフが行動するようにしている。本人のきぼうは意向に沿える様に質問の仕方にも工夫している。困難な場合は生活暦や日常の本人の言動よりくみとる様にしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦や家人よりの情報や本人の話を基に馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所者一人一人の表彰をみて快・不快を感じ取り、より快へと導くような声かけをし、記録にも書いたり会議で伝えたりして、個人の現状の把握に努めている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ご本人の事を第一に考え、よりよいケアを統一できるように家人の望みを伺い、介護スタッフ同士充分な会議を行った上で、計画を作成しており、担当者だけではなく、携わっているスタッフの意見交換の中より計画が成されている。		

37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月毎のケア評価と見直しを行い、現状の話し合いが成されている。途中計画をたてたが、これは対応が困難と思う状況が生じた場合、中断し新たに計画を立て直している。</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録・日勤帯・夜勤帯の介護記録を事細かく記載している。その事により、スタッフ同目を通したり、伝えたりする事により、統一したケアや心身の情報がわかりやすく実践していきやすい。また見直しも即対応行え連携が取れ反映につながる。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>していない</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>行事や催し物に関して、地域の方々やボランティアの方々による行事に触れ合え社会性を身につけ、消防訓練を通しての練習の参加を体で身につけたりと協力しながら支援している。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>			
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>			

43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>二週間に一回嘱託医受診していただき、しょげん指示を受けている。また緊急時は電話・FAXにて報告して指示で対応している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>近くに病院・医院があり、相談して、診断・対応方法や改善策を指示、助言してもらっている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>施設長が看護職員であり、スタッフも看護職員が数名おり、緊急時等報告相談している。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中、病気の説明・経過・今後等は、家族と共に先生の説明を受けて対応している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居前の面接時、家族の方に方針を伺い、重度化した場合早い段階より病気の説明・経過・今度等家族と共に先生の説明を受け対応している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ある程度の「できること・できないこと」は見極めている。掛かり付け医の終末期には協力してくださるよう話し合いもできている。</p>		

49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他施設へ移る際は、介護ワリ-を書いて本人の快・不快・できる事・好きな事を伝えるようにしている。叩-ツヨク'メ-ジ'を防ぐよう支援している。家に戻る際は日々の細やかな習慣やしている事等を伝えている。十分に情報交換を行っている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人を尊重し言葉掛けも丁寧に本人の誇りを傷つけないようにしている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>まず行動をする時には利用者にどうしたいのかを聞く。希望や日々どう過ごしたいのかを聞いたり、表情を見て察し、本人に決めてもらい納得できる暮らしの実践に努めている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>何か行動する時にはまず入所者に聞くようにしている。どう過ごしたいのかを本人に決めてもらい希望にそった支援になるよう努めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>美容院への希望がある利用者は2ヶ月に1回美容院の方に来てもらい、また外部の美容室に同行している。</p>		

54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>何を食べたいのか利用者に聞き、パワスの取れた食事を利用者と一緒に準備・食事し当番制で片付けをしている。BGMをかけたたりしている。</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者に応じて、好みの物を楽しんでいただけるよう用意している。自室で水筒おやつの缶を置いていただいている利用者もいます。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄パターンを把握して声かけを行うことで、失敗、おむつの使用を減らし、トイレへ行く事の認識を持っていただけるようにしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>一人一人ワンツーマンにてゆっくり入浴して楽しんでいただいている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人一人の好きな時間を大切に、居室にて臥床されたり、ソファで休息したりしていただいている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入所時、一人一人の生活暦を家族の方に記入していただき、それを基に趣味をとりいれたりしている。食材配達・公園への散歩・縫い物・編み物等していただいている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>週一回ヤクルト・パン購入日があり、買う選ぶ楽しみを家族に了解を得て、少しのお金を管理できるよう支援している。</p>		

61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>帰宅願望のある入居者は、ワンツーマンにて苑外一周、庭での花摘み等支援している。週に1度花屋さん、天気の良い日は公園へ散歩、庭でおやつをとったりする。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>1ヶ月に一回、他の利用者と一緒に外出に出かけたり、年に一度遠足にでかけたりします。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者が希望された場合、家族とのお話で混乱が少なくなればと電話回線を多く持っています。電話がかかった場合、自宅で話ししていただいています。年賀状も出しています。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>家族等訪問されたら、自室でゆっくりお話できるようお茶を出しています。時には記念撮影をし、写真を見ていただいています。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定期準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は一切行っておらず、玄関の施錠も基本的にはしていない。やむを得ない場合は利用者、家族に理由を説明し、理解を得ている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>心理的な不安や閉塞感がないように家族の方や地域の方々も気軽に出入りできるように玄関は開放している。</p>		

67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>プライバシーに配慮し、常にどこにおられるのか気配り目配り確認をし、見守り把握している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>家と同様に管理しており、職員の見守りのもとで、一緒にかたづけ、掃除を行っている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>転倒には、歩行時・椅子から立ち上がり時に見守りを行い、個々にあった椅子に座って頂いている。薬については管理、服薬確認している。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>けが・転倒・意識レベルの低下、行方不明時の緊急対応マニュアルがあり、全ての職員が熟知している。</p>		<p>一人で徘徊される方の上履き・下履きに住所・氏名・TELを記入している。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>散歩時挨拶を交わし、ボランティアでピアノ・折紙・民謡等行い、入居者の方は楽しみにされている。</p>		<p>避難訓練</p>
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	<p>毎月の様子を請求書と一緒に家人の方に報告し、来苑時家人さんの希望などを聞きその都度ケア会議で話し合っている。</p>		

(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>隔日（毎日）のバイタル測定を行い顔色・表情観察に努めている。必要時囑託の先生の指示をうけて、対応している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>全ての職員が今飲まれている薬が分かるように効用・副作用・朝・昼・夕・眠前の薬を表にしている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>毎日体操、ストレッチを行い食物繊維、ヨーグルトなど食べ物で調整し、必要な方は、お薬で対応している。</p>	<p>便秘（脱腸）の方には、腹部を温めてマッサージを行っている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後の口腔ケア。夜間はポリデントで消毒。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>本人の好みを察知し、お茶の時間で快く水分を取ってもらうよう心がけている。又体重測定は毎月測定しており、増減によって摂取量の確保に気を配り・食事・水分量は毎日「記入し把握している。</p>	<p>食事・水分量の少ない方は、コミュニケーションを計りながら介助をしている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）</p>	<p>常に職員・入居者は、うがい 手洗いをし、こまめのタオル交換・消毒施行。入浴は隔日施行・冬期はトイレ・てすり・ドアは塩素系の消毒している。</p>	<p>週一回リネン交換 週三回入浴日 毎朝wc・トイレのてすり消毒</p>
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>常に手洗いをし夜間には、まな板、布巾消毒を行い冷蔵庫の室温・湿度測定管理を行っている</p>	<p>冷蔵庫内の温度・管理こまめな掃除を行っている。</p>

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関の周りは、花を植えており外からも中が見えやすいガラスドアであり、又スロープと階段あり。玄関は、てすりと靴をはき替えやすいようにベンチ置いている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>四季に応じて壁画作りをし、季節に応じた尾花を利用者と庭にて取り、各テーブルに飾っている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>個々に応じた家具類の配置・ベット・畳に布団をひいておられる方と利用者の方によって違いがある。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々に応じた家具類の配置・ベット・畳に布団をひいておられる方と利用者の方によって違いがある。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎朝、窓を開け掃除し、極端な温度差のない様、浴室・居室・リビング・廊下等エアコンにて調整している。</p>		

(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関にはスロープがついており、全室バリアフリーになっている。必要か所・トイレ・風呂・洗面台・リビング・廊下全て手すりが設置されている。</p>		<p>手すりをした生活リハビリを行っている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>混乱時には傾聴し、趣味（編み物・縫い物・書写・短歌等）その方にあったレクリエーションを促している。</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>季節に応じた園芸、畑作業ができ、収穫時は入居者のかたがたは喜ばれている。（芋ほり・玉葱とり・イチゴとり・柿もぎなど）</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)